



第24号
平成30年1月1日発行
発行所
藤香会事務局
092-724-0007
発行責任者
毛屋 嘉明

平成三十年を迎えて

藤香会会長 山崎 拓



新年明けましておめでと
うございます。

私が藤香会の会長になりましたのは、2008年(平成20年)であります。今年で10年になるわけですので、改めてこの間を振り返ってみたいと思います。

最初の頃は私も忙しく、会長としては主な行事に出席するくらいでした。相変わらず、毎週半ばには上京しておりますが、しかし最近の5年間は、年間の藤香会行事のほとんどに出席し、藤香会の会員の方にもお会いする機会が多くなりました。特に、私の事務所内に藤香会事務局を移してからは、私自身も極力理事会にも出席しており、藤香会の活動内容もよく解るようになりました。崇福寺、東長寺で行われる年3回の歴代藩主の法要には東京より16代当主の黒田長高様も必ず出席頂ける様になりました。また、総会、墓地清掃、勉強会、史跡巡り、忘年会や、各神社・仏閣への正式参拝等の年中行事も充実してまいりました。そのため、去年は賛助会員を募ったところ多数の方の賛同を得て、目標の50社達成の目処が立ちました。どうもありがとうございます。

今後は更に行事の充実を図り、「藤香会に入って良かった。」と言われるように新たな企画を推進し、藤香会の発展に努めたいと思います。

黒田奨学会、福岡城市民の会との連携もそれぞれの特徴を生かしつつ、相互乗り入れで上手く行っ

年頭にあたり

藤香会副会長 毛屋 嘉明



明けましておめでと
うございます。

昨年は熊本地震に続き、北部九州大水害と自然の怖さを知らされた年でした。

早速7月末には、東峰村と小石原焼の二人の藤香会会員の自宅に、水害見舞いとして会長、事務局長と行つてまいりました。途中の道路は寸断され道路脇には流木が積み重なって水害の爪痕をまだ残しておりました。幸いにも上流側の一人の会員は大した被害はありませんでしたが、下流側の会員のところは製作した作品の大半が流され、本人も自ら逃げるのがやっとだったそうです。

今後の早急な復旧が待たれます。また、会員一同で機会を見つけて御見舞にまいりたいと考えています。

話は変わりますが、会長も年頭に述べてありますとおり、昨年より賛助会員の募集をしましたところ、50社の企業、団体、神社の加入をいただき当初の目標を達成できました。まことに有難いこととございます。この賛助金は藤香会会員の誇りになるものに変えて、更なる藤香会活動・行事の充実に使いたいと思います。その用途については理事会に諮って検討し、5月の総会にて詳しく報告する予定です。

今後とも、ご協力のほどよろしくお願いいたします。

会員クリック②



櫻井神社宮司 外山 穰也

櫻井神社と黒田家の尊崇

櫻井神社創建の由来は、慶長15年(1610)旧暦6月1日より2日未明の大雷雨により、電光一閃、神窟の岩戸が開き、

霊験あらたかな神様が出現されたことに始まります。その神様のお告げは、桜井在住豪族浦新左工門の夫人乗鞍により、発せられます。御神託には奇異奇瑞多く、遂に筑前福岡2代藩主黒田忠之公の耳にも聞こえ、家臣を派遣して、真偽を確かめられることとなり、大いに信じ崇敬されます。神託により、寛永2年(1625)に伊勢神宮より天照大御神、豊受大御神を岩戸宮南西の光寿山中腹に、神宮祀官橋本氏をして勧請奉祀されました。

又、忠之公は、寛永6年より与止妃大明神(櫻井神社)創建に着手され、本殿、拜殿、楼門、神池、石鳥居等の鄙には稀な壮大な結構を持つ社殿など建造され、寛永9年(1632)5月には完成竣工の運びとなります。そして、数々の神宝と200石を奉納されます。そのころ、筑前藩筆頭家老栗山

大膳が「藩主が幕府に謀反の疑いがある」と訴えるところとなり、双方とも江戸にて、幕府からの審問を受け、寛永10年忠之公の疑いは晴れ、外様大名取り潰しの難から逃れることとなり、益々崇敬心は厚く深くなつたと推測されます。

承応3年(1654)忠之公が逝去されると、その神霊を島岡大明神として本殿相殿に奉斎されて、黒田家の御先祖神として代々の当主はじめ御ゆかり深き崇敬者の方々より厚い崇敬の念をもつて、延々と奉拝されることとなります。



櫻井神社

長政公395回忌法要

長政公の395回忌法要が行われました。命日である8月4日、16代当主長高様を迎えて崇福寺の方丈(本堂)で厳かに執り行われました。会員56名が参列しました。岩月海洞老師の読経の中、長高様を初め会員が焼香をしてご法要を終えました。

その後、長政公の墓前に向かい、僧侶の読経の中で焼香を済ませ、すべての行事がとこおりなく終了しました。

当日は気温が36度と暑く、会員は汗を拭きながらの法要でした。

職隆公433回忌法要

如水公の父職隆公の第433回忌法要と彼岸会法要とを兼ねた法要が、大長寺(福岡市中央区舞鶴)で9月23日に執り行われました。

江戸時代中ごろ、幕府により藩主の系図の提出が命ぜられ、黒田家も先祖探しを行なって系図を提出しました。播州妻鹿にあった職隆公の墓所を改修した折、墓所から出てきた硅化木(古木の根)が筑前にもたらされ、大長寺に安置されました。大長寺ではこのたびお堂を建てて古木の根を安置しました。それを記念してのご法要です。



古木の根(手前)

黒田長高様と藤香会の7名の理事が参列しました。

法要の後、福岡市博物館の田坂大蔵顧問が「黒田家と大長寺」と題して講演を行いました。普段あまり知ることのない姫路での職隆公の存在や黒田家の先祖探しの中で職隆公の墓所を探し、改修したことなどをお話されました。

「歴史勉強会開催」 於9月24日福岡市博物館



熱心に聞き入る参加者

当会会員であり、福岡地方史研究会会長でもある石瀧豊美先生が「黒田家と奨学事業」について、1時間30分にわたって講演されました。会員42名、一般14名の計56名の出席でした。

史跡めぐり 宗像大社世界遺産群をたずねて!!



沖津宮遙拝所



中津宮にて

世界文化遺産に認定された沖ノ島および関連遺産群を見る旅となり54名が参加しました。

11月7日、宗像大社の、前週天皇皇后両陛下が立ち寄られた勅使館を皮切りに本殿での正式参拝した後、神社の原始形態である高宮祭場参詣と神宝館の見学、続いて鎮国寺の空海の作と言われる5体の仏像を見学。昼食後は大島に渡

り宗像大社の中津宮を参詣して天の真名井の神水で喉を潤して沖津宮遙拝所に向かいました。残念ながら薄曇りの天気であったため沖ノ島を見る事ができませんでしたが、静かな海の向こうに神聖な沖津宮があるという感慨に浸ることができました。

大島での見学は宗像大社の権禰宜である松林さんに同行案内していただきました。宗像大社での葦津宮司、鎮国寺では立部住職の説明など普段の観光の案内では聞くことのできないお話を聞くことができました。会員の声にも藤香会であるからこそ、このような説明を受けることができた感謝の言葉がありました。どうもありがとうございました。

一夜にして天守現らわる??



福岡青年会議所が福岡城址(天守台跡)にパネル100枚を使って建てました。8月11日と12日の2日間、夜はライトアップされました。

★新規入会員紹介

平成29年7月 久保田勇夫
11月 堀内恭彦
12月末日 賛助会員企業数 47件

集記 編集後 平成30年1月1日号をお届けします。今年は当会の行事として黒田家理事が手分けをしてお参りいたしますが、会員の方も参詣したい方がいらつしやれば是非とも一緒にください。(天本)

ホームページアドレス
<http://foukoukai-kuroda.com/>